

教育理念及び教育目標

予測困難な時代の中で、生徒一人一人が自分のよさや可能性に気付き、他者と協働しながら、未来を主体的に生き抜く力を育てる。豊かな創造性を備え、持続可能な社会の創り手となるために、本校では次の教育目標の実現を目指す。

- 自ら進んでよく学び、協力して働く生徒
- 規律を守り、責任を重んずる生徒
- 心身ともに健康で、思いやりのある生徒

目指す学校像 (学校像、生徒像、教師像)

(1) 目指す学校像…「未来を主体的に生き抜く力を育む学校」

- ① 生徒一人一人が安心して学び、自分のよさや可能性を発揮できる学校
- ② 生徒が将来の「自主自立」に向けて、自ら考え、仲間と協働し、挑戦しながら成長できる学校
- ③ 保護者・地域の方々が、未来を担う子供たちを通わせたいと思う信頼できる学校
- ④ 教職員がそれぞれの強みを生かし組織的に支え合う学校

(2) 目指す生徒像…「自尊感情とともに多様な他者を尊重、協働し、自ら学び、課題の探求・解決を図ることのできる生徒」

- ① 自ら進んでよく学ぶ生徒…自ら学び、課題を見つけ、主体的に考え解決に向かえる生徒
- ② 協力して働く生徒…仲間と支え合い、集団や地域の中で自分の役割を果たせる生徒
- ③ 規律を守り、責任を重んずる生徒…ルールを守るだけでなく、自分で判断し、責任ある行動ができる生徒
- ④ 心身ともに健康で、思いやりのある生徒…心も身体も健やかで、他者に対して豊かな人権意識をもち、相手を思いやり、自分も相手も大切にできる生徒

(3) 目指す教師像…豊かな人権感覚と教師としてのプロ意識のもと、自らのよさ・強みを発揮し、組織的に地域と協働し、生徒主体のよりよい教育活動に向けて精進する教師

- ① 高い専門性と向上心をもち、授業力・指導力・情熱・使命感、実行力のある教師
- ② 生徒の視点に立ち、生徒に寄り添い、生徒の成長を支援できる教師
- ③ 当事者意識で気付き、主体的に考え、的確・迅速に行動し、互いに協力し合い、協働できる組織的な対応（報告・連絡・相談・実践の徹底、外部機関との連携）ができる教師
- ④ 教育公務員として法令等を遵守し、正直で誠実な行動をし、笑顔を忘れず感謝の気持ちを常にもつ、区民・都民の期待と信頼に応える教師

学校経営の目標

生徒一人一人の可能性を最大限に引き出すため、次の2点を重点方針とする。

生徒の学力を向上させることで学習に対する自信をもたせるとともに、学級活動や行事等を通して主体的に取り組める場面を意図的に設定し、自己肯定感・自己有用感を感じさせることで、不登校の未然防止につなげる。

(1) 学力向上

●「なぜ」「なるほど」「もっとやってみたい」が生まれる授業づくり
教員がファシリテーターとなり、導入や発問を工夫し、生徒の問いや学ぶ意欲を引き出す授業を行う。

●主体的・対話的で深い学びの実現

話し合い、説明、記述、発表の場を意図的に設定し、自分の考えを深める学習活動を充実させる。

●指導と評価の一体化の推進

単元の目標や評価規準を明確にし、振り返りやルーブリック等を活用して学びを見える化する。

●ICT活用の推進 授業支援ソフト「ミライシード」の積極的活用

1人1台端末やデジタル教材を活用し、個別最適な学びと協働的な学びを進める。

●自己管理能力、学習習慣の育成

Foresight手帳等を活用し、計画・実行・振り返りの習慣を身に付けさせる。

(2) 生徒に寄り添う指導の推進

●一人一人の背景や思いを理解した丁寧な指導

日常の声かけや面談を通して、生徒理解を深めた上で指導に当たる。

●いじめ、不登校を生まない学年・学級づくり

安心して過ごせる人間関係づくりと居場所づくりを、学級経営の基盤に据える。

●教育相談体制の充実

担任だけで抱え込まず、教育相談担当や関係職員と連携して早期対応を行う。

●特別支援教育と合理的配慮の推進

個々の実態に応じた支援内容を共有し、継続的で一貫した支援を行う。

●小さなSOSを見逃さない組織的支援

欠席傾向、表情、言動の変化などを学年・学校全体で共有し、早期に対応する。

目標を達成するための基本方針 ～はるえアクション・スローガン～

教育目標を達成するための基本方針として「はるえアクション・スローガン」を掲げる『未来を担う人』である生徒一人一人が夢や志を抱き、自分の力で困難に立ち向かいながら、前に進むことができるように、生徒の『未来を主体的に生き抜く力』を育成する。

【は】つけん（発見）・気付く

- ①自己理解…自分を見つめ強みや弱みを把握し、未来に向け何を大切にし、どのように行動するか自己基盤（自分軸）を形成する。
- ②クリティカル・シンキングと課題発見…『正解』がないことを踏まえ、物事や情報を多角的・論理的・客観的・批判的に分析・検討・判断する力を育み、課題を発見し解決策を考える。
- ③探究…課題解決に向け『学ぶ意義』を感じ、設定した目標やテーマを探究し、主体的に学ぶ楽しさやできる喜びを感じる。

【ル】ートを考え、つながる

- ①『なりたい自分』につながるために、新しい視点や知識を得ながら自分を成長させ、変容させるアクションを起こす。
- ②自分の夢・目標は何か？自分で考えて、決めて、行動する。トライ＆エラーを繰り返し、あきらめずにポジティブに挑戦する。
- ③目標達成に向けPDCAサイクルで自己調整・自己管理しながら、自学自習していく。

【え】がお（笑顔）を創り出す

- ①自分や他者の幸せ（ウェル・ビーイング）を常に考え、互いに助け合える思いやりと優しさを持ち、誰もが幸せに生きることができる多様性共生社会を目指す。
- ②積極的にボランティア活動へ参加する。

目標を達成するための具体的方策

（1）各教科

○各教科の授業では、生徒が各教科に応じた見方・考え方を働かせ、主体的に学習に取り組ませるために、「何を学ぶか」「何ができるようになるか」「どのように学ぶか」など学びの意義を実感できるように各授業で学習のねらいやルーブリック評価など学習の目標や内容を明示し、定期考査とは別に単元テストなど評価場面や評価方法を工夫し、信頼性のある適切な評価・評定を行い、指導と評価の一体化を図る。また、江戸川区学力調査の結果や生徒による授業アンケートを検証し、学習改善・授業改善を推進する。

○生徒一人一人の主体的・対話的で深い学びを最大限に引き出すために教員がポイントを絞って教え込むインプット中心の授業から、教員がファシリテーターとなり、一人1台端末も利活用し、生徒が自ら考え、思考し、発表するなどアウトプット型の授業に切り替え、「子どもを主語とした教育」を目指す。各々の生徒の基礎学力の定着と可能性を引き出し、問題解決学習・探究的な学習など創意工夫した授業の展開、話し合い活動などの協働的な学びや個別最適な学び（数学科英語科少人数習熟度別授業など個に応じた学び）を取り入れながら、令和の日本型学校教育を推進する。

○「家庭学習のすすめ」を配布し、電子ドリル（ドリルパーク）、単元テストや小テスト、国語、数学、英語等で正答率80%以上を目標としたコンテスト、PDCAサイクルによる自己調整力や自己管理能力を育成する自己管理ノート（Foresight手帳）を活用させ、学習習慣の確立を図る。

○学力向上アクションプランとして、一人1台端末を利活用し協働的な学びや主体的な学びを促し、「よむYOMUワークシート」、外国語指導助手（ALT）の効果的な活用（English Room）、放課後学習教室（EDOスク）などを推進し、学ぶ意欲を向上させる。

○音楽科、美術科、技術・家庭科では芸術の表現や鑑賞、ものづくりで感性や創造力を育み豊かな情操を養う。

○保健体育科の男女共習授業では、健康に関心をもち運動に親しみ体力向上を図る。

（2）特別の教科 道徳

○道徳教育推進教師を中心に道徳授業全体計画、年間指導計画に基づき、道徳的判断力、心情、実践意欲と態度を育てることを目標として、教科書及び国・東京都の教材を使用するとともに、教員がローテーションで行う授業を実施し、「考える道徳」「議論する道徳」を実践する。また、道徳授業地区公開講座を開催し、家庭・地域と連携した道徳教育の充実を図る。

（3）総合的な学習の時間

○総合的な学習の時間は「はるえアクションスローガン～①【は】つけん・気付く、②【ル】ートを考え、つながる、③【え】がおを創り出す～」をテーマとし、校外学習、キャリア教育、SDGs学習などにおいて、探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行う。

○通知表や調査書などの記述で困らないように、生徒が自ら問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。

(4) 読書科

○読書科の時間を通して探究的な学習を進めるために、課題を自ら設定しその内容を学び、問題を発見し情報を収集し、問題解決に向けての情報を効果的に整理・分析し、自分の考えを論理的にまとめ、調べ学習・POP 作りやビブリオバトルなど多様な表現活動で発表させ、生徒の主体的な探究活動を支援する。

○学校図書館全体計画に基づき、読書科を中心に学校図書館の利用を計画的に実施し、調べ学習等、探究活動の場として、図書館司書と連携し学校図書館の効果的な活用を進める。

(5) 特別活動

○学級活動では、集団の一員としての自覚を促し、互いに助け合えあえる思いやりと優しさを涵養し、よりよい集団を築こうとする自主的・実践的な態度を育てる。また、社会に貢献できる力を育成し、日常生活や学習への適応と自己の成長及びキャリア形成や将来の生き方などを自分事としてとらえ、自己実現を図ろうとする態度を養う。

○生徒会活動では、学校生活の充実と向上を図るため、生徒に委ね任せる活動を推奨し、生徒の自律や自治の活動を促し、成功体験を積み重ね、自己有用感や自己肯定感を高める。

○学校行事や学年行事での多様な体験活動を通して、学校生活に秩序と変化を与える。そして、自己をみつめ、多様な他者と協働し、コミュニケーション能力や人間関係をよりよく形成できる調整力を育む。さらに、集団への所属感や連帯感を深めさせ、よりよい集団や持続可能な社会に貢献できる力を育成する。また、ボランティア活動等を通して地域や社会への参画の意識を高める。

(6) 生活指導

○生徒指導提要に基づいた本校の生活指導の基盤を記した資料「スクールライフ」を全教員が共通理解し、生徒や社会の状況に合わせて適切な生徒支援を行う。「責任ある自由」を掲げ、学校生活の様々な場面でルールや校則を生徒が主体的に考え行動できるようにする。

○L-GATE の結果を分析して生徒理解を深め、生徒一人一人の自己肯定感、自己有用感が高まる学級経営を工夫し、生徒に寄り添う支援を実践していく。

○教育相談体制の充実を図るため全生徒対象の二者面談を設け、生徒との人間関係の構築、生徒理解、好ましい人間関係の醸成に努める。学校いじめ対策委員会が中心となり生徒の細かな変化を見逃さない校内体制を整え、アンケート等を活用して、いじめの未然防止及び早期発見・早期対応を組織的に行い、いじめの根絶を目指す。

○教育支援委員会を中心に、やむを得ず学校に登校できない生徒、特別支援教育、LGBTQ 等の特別な支援や配慮を要する生徒一人一人に対して、生徒の多様性や個性、価値観を把握し理解しながら、生徒に寄り添い、個に応じた適切な支援を行う。特にやむを得ず学校に登校できない生徒については、エンカレッジルームにおける支援体制を整え、不登校対応巡回教員、エンカレッジサポーター、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、学校サポート教室、教育相談室などと連携・協力し、家庭との連絡を密にとり生徒の状況に応じた支援や指導を行う。スクールカウンセラーによる自己肯定感やソーシャルスキルを高めるための授業を全学年で実施する。

(7) 進路指導（キャリア教育）

○キャリア教育年間指導計画に基づき、職業調べ、職業講話、チャレンジ・ザ・ドリーム（職場体験）、上級学校調べ、面接練習などの体験的な活動を実施し、社会生活を営む上の必要なマナーやルール、働くことや社会に貢献することについて考え行動できる力を育成する。

○自分で生き方や進路に関する適切な情報を収集・整理し、主体的な進路選択と将来設計を考え自己実現を図ろうとする態度を養う。

○これまで生徒自身が進路選択の際に希望による「行きたい学校」でなく、学力を判断基準として「行ける学校」を選択している現状を踏まえ、生徒に「なぜ勉強するのか？」と問いかけ、自分自身を見つめなおす機会を設け、自分は何を目指したいのかを表現できるように支援する。

(8) 人権教育

○教育活動全体を通して、様々な人権課題の解決について考えを深め、共生社会の実現に向けよりよく行動できる心情を養う。また、学年ごとに人権教室を計画的に実施し人権教育を推進する。

(9) 特別支援教育

○教育支援委員会を毎週開催し、特別な支援や配慮を要する生徒に対して情報を共有し、具体的な支援策、手立て等を検討し教職員で共通理解し、生徒に寄り添い適切な支援をする。

○特別支援教室では、個別指導計画に基づき自立活動などを実施し、在籍学級の中で他の生徒とともに有意義な学校生活を送れるように支援する。

(10) 特色ある教育活動

○生徒が地域社会の一員としての自己の役割を考える機会として地域でのボランティア活動などを生徒に周知し、自ら手を挙げた生徒にボランティアTシャツを貸与し、地域での行事の手伝いや祭りでの「春中よさこい」披露など積極的に参加させ、地域とつながり地域に貢献できる生徒を育成する。

○地域とともにある学校づくりを進め、家庭や地域の関係諸機関等との連携を強め、学校関係者評価を実施し、保護者や地域の要望に応え、開校 50 周年記念行事やコミュニティ・スクールへの移行の準備を進める。